

## 齋藤武生先生 研究年誌

雑誌名	言語科学研究：神田外語大学大学院紀要
巻	14
ページ	127-138
発行年	2008-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1092/00000466/">http://id.nii.ac.jp/1092/00000466/</a>

## 齋藤武生先生 研究年誌

- 1965 (1) 「意味性について」東京教育大学大学院英文学会シンポジウム (1965.7)
- 1966 (1) 「生成文法とそのテスト」*Otsuka Review* (東京教育大学大学院英文学会) 第3号 (1966.3), pp.46-56.
- (2) 「変形文法におけるモデルの概念の捉え方」仙台英語学談話会 (1966.7)
- (3) 「変形文法と成層文法」東北英語英文学会 (1966.10)
- (4) 「変形文法とモデルの概念」『英語文学世界』(英語文学世界社)11月号, pp.14-17.
- 1967 (1) 「変形文法における音韻論の諸問題」仙台英語学談話会 (1967.2)
- (2) 書評：Jerrold J. Katz, *The Philosophy of Language* (Harper & Row : 1966), 『試論』(東北大学文学部英文学研究室) 第9集 (1967.3), pp.88-92.
- (3) 書評：S.M. Lamb, *Outline of Stratificational Grammar* (Georgetown U.P. : 1966). 『学燈』(丸善).5月号, pp.76-77.
- (4) 「成層文法の問題点」*Otsuka Review* (東京教育大学大学院英文学会) 第4号 (1967.6), pp.34-45.
- 1968 (1) 「応用言語学について」『英語の窓』(中教出版)67号 (1968.1), pp.13-15.
- (2) 注解：K.V. Teeter, "Grammar and Generative Grammar" 『英語教育』(大修館書店) 1月号, pp.18-24.
- (3) 「言語学的意味論について (1) —構造言語学の場合」『静岡大学教養部研究報告』第3号 (1968.3), pp.1-10.
- (4) 書評：S.M. Lamb, *Outline of Stratificational Grammar* (Georgetown U.P. : 1966). 『英文学研究』(日本英文学会)44巻2号 (1968.3), pp.280-285.
- (5) 「変形文法はどのようにして英語教育に応用できるか」静岡大学教育学部英語研究会シンポジウム (1968.8)
- (6) 「アメリカにおける最近の言語学」, 鳥居次好編『英語教育学への提案 (英語教育叢書 No. 25)』(開隆堂 : 1968.9) pp.21-31.
- 1969 (1) 「言語学的意味論について (2) —変形文法の場合」『静岡大学教養部研究紀要』4号 (1969.3), pp.149-162.

言語科学研究第14号（2008年）

- (2) 『シンポジウム・変形文法の英語教育への応用』（著者：鳥居次好，佐々木昭，斎藤武生）（明治図書：1969.3）130pp.
  - (3) 書評：N.R. キャテル著，楠田震訳『変形文法入門』（千城出版）．『英語研究』（研究社出版）4月号，pp.62-63.
  - (4) 項目分担執筆：『英語表現辞典』（大塚高信監修）（研究社出版：1969.5）  
[第二版（1985）：荒木一雄，大沼雅彦，豊田昌倫編]
  - (5) 「変形文法的発想法の利用」『英語の窓』（中教出版）84号（1969.7），pp.4-8.
  - (6) 海外文献紹介（BOOKS FROM ABROAD）：F.R. Palmer (ed.), *Selected Papers of J.R. Firth 1952-1959* (Longmans, 1968). 『英語青年』（研究社出版）9月号，pp.37-38.
  - (7) 「変形文法と英語教育」語学研究所大会シンポジウム（1969.10）
  - (8) 「シンポジウム：変換文法と英語教育 [抄録]」（講師：外山滋比古・長谷川克哉・斎藤武生）『語研ニュースレター』（財団法人・語学教育研究所）23号（1969.10.15），pp.2-3.
- 1970
- (1) 「大学における英語の問題」『英語文学世界』（英潮社）1月号，pp.38-41.
  - (2) 「変形文法と英語教育 - 1969年度語学教育研究シンポジウム」（座長：太田朗，講師：斎藤武生，外山滋比古，稲積包昭，長谷川克哉，榊原孝）『語学教育』（財団法人・語学教育研究所）290号（1970.1），pp.14-22.
  - (3) 翻訳協力：ノーム・チョムスキー著，安井稔訳『文法理論の諸相』（研究社出版：1970.1.20）[第1章下訳]
  - (4) 項目分担執筆：『新英文法辞典（改訂増補版）』（大塚高信編）（三省堂：1970.2）
  - (5) 書評：オーエン・トマス著，松波有・大井上滋共訳『英語教師の変換文法』（松柏社）．『英語教育』（大修館書店）4月号，p.96.
  - (6) 「現代アメリカ英語の文法」『英語研究』（研究社出版）5月号，pp.10-11.
  - (7) 海外論文紹介：R.C. Dougherty, "An interpretive theory of pronominal reference" [代名詞の解釈理論]（1969）．『英語文学世界』（英潮社）5月号，p.47.
  - (8) 海外論文紹介：A Makkai, "The two idiomaticity areas in English and their membership" [成層文法のイディオム論]（1969）．『英語文学世界』（英潮社）6月号，p.47.
  - (9) 「学としての英語教育学樹立の可能性」中部地区英語教育学会（1970.7）

- (10) 海外論文紹介：J.E. Martin, "Semantic determinants of preferred adjective order" [形容詞の順序の心理学実験] (1969). 『英語文学世界』(英潮社) 8月号, pp.49-50.
- (11) 「言語事実と英語教育」『英語の窓』(中教出版)97号(1970.9), pp.3-5.
- (12) 海外論文紹介：R.A. Hudson, "On clauses containing conjoined and plural noun phrases in English" [カテゴリー文法の System 分析] (1970). 『英語文学世界』(英潮社)10月号, p.49.
- (13) 海外論文紹介：J.J. Katz, "Interpretive semantics vs. generative semantics" [カッツの生成意味論批判] (1970). 『英語文学世界』(英潮社)11月号, p.50.
- (14) 海外論文紹介：C.J. Fillmore, "Subjects, speakers and roles" [格文法の意味論] (1970). 『英語文学世界』(英潮社)12月号, p.50.
- (15) 項目分担執筆：『中学英語指導法事典 < 言語材料編 >』(稲村松雄・納屋友一・鳥居次好共編)(開隆堂：1970.12)
- 1971 (1) 海外論文紹介：G. Lakoff, "Global rules" [統語論に関するグローバル・ルール] (1970). 『英語文学世界』(英潮社) 1月号, p.49.
- (2) 「変形文法と外国語の習得」『英語教育』(大修館書店) 2月号, pp.12-15, p.86.
- (3) 「英語教育学樹立の条件」『中部地区英語教育学会紀要』1号(1971.3), pp.80-83.
- (4) 高等学校英語教科書：Modern English Readers (Revised) I, II, III (著者：安井稔, 木原研三, S.H. Griggs, 酒本雅之, 村田勇三郎, 斎藤武生)(中教出版：1871.4~1975.3)
- (5) 新刊書架：Yoshihiko Ikegami, *The Semological Structure of the English Verbs of Motion* (三省堂). 『英語青年』(研究社出版) 4月号, p.34.
- (6) 書評：「一つのチョムスキー論」MINERVA (静岡大学教養部外国語教室) 創刊号, p.30.
- (7) 「シンポジウム：学としての英語教育学樹立の可能性」(司会：鳥居次好, 発表者：藤掛庄市, 斎藤武生「英語教育学樹立の三つの段階」, 徳田正信)『現代英語教育』(研究社出版) 9月号, pp.35-36.
- 1972 (1) 批評紹介：Yoshihiko Ikegami, *The Semological Structure of the English Verbs of Motion : A Stratificational Approach* (Sanseido : 1970). 『英文学

言語科学研究第14号（2008年）

- 研究』（日本英文学会）48巻2号（1972.3），pp.384-385.
- (2) 書評：Graham C. Wilson & Kimie Mushiaki, *Usage in Today's American English*（開隆堂）。『英語教育』（大修館書店）5月号，p.94.
- (3) 分担訳：M. レスター編『応用変形文法』（Mark Lester, ed., *Readings in Applied Transformational Grammar*, 1970）（安井稔監訳）（大修館書店：1972.7）[ジョージ・ミラー「心理言語学者」（George Miller, “The Psycholinguists”）pp.24-49.]
- 1973 (1) 項目分担執筆：『現代英語学辞典』（編集主幹：石橋幸太郎）（成美堂：1973.1）
- (2) 海外文献紹介（BOOKS FROM ABROAD）：Ray. S. Jackendoff, *Semantic Interpretation in Generative Grammar*（MIT Press：1972）。『英語青年』（研究社出版）10月号，pp.50-51.
- (3) 項目分担執筆・校閲：『小学館ランダムハウス英和辞典（全4巻）』（小学館：1973.10～1974.10）
- 1974 (1) 「変形文法における関係主義」『英語文学世界』（英潮社）4月号，pp.22-23.
- (2) 「なぜ英語教育は必要か」静岡大学教育学部英語研究会シンポジウム（1973.5）
- (3) 「英語教育目的論の基礎」*The Promising Age*（静岡大学教育学部英語研究会）14号（1974.5），pp.32-33.
- (4) 分担訳：A. ボールドマン編『言語教育の基本問題』（大修館書店：1974.6）[ジョン・B・キャロル「心理学理論および教育研究の外国語教育に対する貢献」pp.135-152]
- 1975 (1) 書評：太田朗，梶田優著『英語学大系第4巻：文法論Ⅱ』（大修館書店）。『英語展望（ELEC Bulletin）』（財団法人・英語教育協議会）No.50（1975.7），pp.40-41.
- (2) 書評：J.T. グリンダー & S.H. エルジン著，鏑木英津子訳『入門変形文法 - 歴史・理論・演習』（こびあん書房）。『英語教育』（大修館書店）11月号，p.94.
- 1976 (1) 書評：今井邦彦著『変形文法のはなし』（大修館書店）。『英語教育』（大修館書店）2月号，p.94.
- (2) 「チョムスキーの言語習得論」『英語教育』（大修館書店）7月号，pp.26-28.

- (3) 「存在文について」『英語の窓』(中教出版)7-8月号, pp.15-17.
- 1977 (1) 「第2章 変形文法の英語教育への貢献：まえがき」(pp.87-90) / 「新しい文法の見方」(pp.113-118)『新言語学から英語教育へ』(編集委員：小泉保, 岩倉国浩, 斎藤武生, 船木道雄, 佐々木昭, 大野三郎)(大修館書店：1977.6)
- 1978 (1) 「英語の不定名詞句をめぐる問題」『言語文化論集』(筑波大学現代語・現代文化学系紀要)3号(1978.2), pp.1-34.
- (2) 「言語における「満つれば欠くる」の道理」『言語文化研究レポート』(昭和51/52年度文部省科学研究費補助金一般研究(B)「言語と文化の関係に関する基礎理論の開発および研究」<研究代表者：筑波大学教授 郡司利男>)(1978.3) pp.111-125.
- (3) 「筑波の風」『こびあん』(こびあん書房)1号(1978.6), pp.11-12.
- (4) 「学校文法と構造言語学・変形文法」『学習英文法』(講座『現代の英語教育』第7巻)[著者：荒木一雄, 宮田幸一, 小西友七, 安藤貞雄, 斎藤武生, 宮田斉, 空西哲郎, 村田勇三郎](研究社出版：1978.10) pp.116-142.
- 1979 (1) 「記号としての英語の教育」, 玉井東助編『英語教育と検定制度』(筑波大学外国語検定制度研究会)(1979.3) pp.83-109.
- (2) 「親疎の関係」『英語青年』(研究社出版)4月号, pp.21-22.
- 1980 (2) 項目分担執筆・校閲：『小学館英和中辞典』(小西友七・安井稔・国広哲弥編)(小学館：1980.12)
- 1981 (1) 「比喩発生のメカニズム - 手足と口の言語文化論」『論叢言語文化』(筑波大学現代語・現代文化学系言語文化グループ<代表：郡司利男>)(1981.1) pp.29-43.
- (2) 「英語学雑感」『昭和55年度英語学クラス卒業記念文集』(1981.3) pp.9-10.
- (3) 「アメリカの謎について」『言語文化論集』(筑波大学現代語・現代文化学系紀要)11号(1981.9), pp.1-31.
- (4) 「『コトバ』のことなど」『こびあん』(こびあん書房)3号(1981.12), pp.11-12.
- (5) 「『アリス』のパスティーシュ」『新英文科手帖』(同人誌)8号(1981.12), p.2-11.

言語科学研究第14号（2008年）

- (6) 「同格構文再考」『現代の英語学』（編集委員：郡司利男，桑原輝男，斎藤武生，中右実，原口庄輔）（開拓社；1981.12）pp.96-105.
- 1982 (1) 「語法研究の落とし穴」『現代英語教育』（研究社出版）1月号，pp.6-8.
- (2) 「英語の時間表現」（共著：斎藤武生・鈴木英一）『言語文化論集』（筑波大学現代語・現代文化学系紀要）12号（1982.3），pp.137-155.
- (3) 「言語表現の二つの見方」『筑波英学展望』（筑波大学現代語・現代文化学系英語学・英文学グループ）創刊号（1982.3），pp.41-48.
- (4) 書評：小西友七著『アメリカ英語の語法』（研究社出版），『現代英語教育』（研究社出版）5月号，p.41.
- (5) 書評：伊藤健三・島岡丘・村田勇三郎著『（英語学大系第12巻）英語学と英語教育』，『英語教育』（大修館書店）9月号，p.92.
- (6) 「英文法をめぐる問題」『高校通信』（教育出版）16巻13号（1982.9），pp.4-6.
- (7) 「筑波英語教育学会シンポジウム：英文法指導の諸問題」（司会：斎藤武生「新課程の実施をめぐる」；発表者：原口庄輔，鈴木英一，村田純一）『現代英語教育』（研究社出版）10月号，pp.8-14.
- (8) 「タブーをめぐるアカデミズム — 「U」と「ノンU」の議論のゆくえ」『新英文科手帖』（同人誌）9号，pp.12-17.
- 1983 (1) 「英語教師のための文法知識」『英語教育』（大修館書店）2月号，pp.6-8.
- (2) 「3の言語文化」『筑波英学展望』（筑波大学現代語・現代文化学系英語学・英文学グループ）2号（1983.3），pp.1-13.
- (3) 「クリーシェイについての議論」『論叢言語文化』3号（文部省特定研究「日英連語に関する言語文化研究」研究報告＜研究代表者：筑波大学教授 郡司利男＞）（1983.3），pp.28-48.
- (4) 「イギリスの階級方言 - U と non-U についての問題」『言語情報』（文部省科学研究費補助金一般研究（B）「言語学における情報検索と言語分析に関する研究」報告＜研究代表者：筑波大学教授 安井稔＞）（1983.3）pp.19-30.
- (5) 「なぞの不気味さ」『悪魔の言語学』（郡司利男編）（開拓社；1983.3）pp.72-85.
- (6) 「諺の中の世界」『言語を指標とした文化の実証的研究』（文部省科学研究費

- 補助金一般研究（B）＜研究代表者：筑波大学教授 郡司利男＞（1983.3）  
pp.12-17.
- (7) 項目分担執筆：『高校教育総合事典』（宮島龍興他監修）第1巻（第一法規：1983.5）pp.453-457（「言語と文化」）
- (8) 『名詞・代名詞』（講座『学校文法の基礎』第2巻）[監修荒木一雄：編集委員；大江三郎，斎藤武生、成田義光，村田勇三郎]（研究社出版：1983.7）pp.121-261.
- (9) 書評：毛利可信著『橋渡し英文法』（大修館書店），『現代英語教育』（研究社出版）8月号，p.52.
- (10) 「言語文化」の発想『言語文化論集』（筑波大学現代語・現代文化学系紀要）15号（1983.9），pp.407-417.
- (11) 『言語文化学事始』（開拓社言語文化叢書）（開拓社：1983.9）189pp.
- 1984 (1) 「(辞書の選び方・使い方ガイド：英語)個性尊重の時代へ」『週刊読書人』（1984.3.19）p.13.
- (2) 「英語教師のための最新英文法事情」『現代英語教育』（研究社出版）3月号 [創刊20周年記念号]，pp.50-53.
- (3) 「can と be in a position to」『英語の文法理論』（昭和58年度科学研究費総合研究A「電算機処理による現代英語の記述的・理論的研究」中間報告書＜研究代表者 筑波大学教授 安井稔＞）（1984.3）pp.25-26.
- (4) 「言語の生物学的基盤と文化的特質」『筑波英学展望』（筑波大学現代語・現代文化学系英語学・英文学グループ）3号（1984.3），pp.49-57.
- (5) 「ハングリー・フォーティーズと笑い」『新英文科手帖』（同人誌）10号（1984.3），pp.26-30.
- (6) 「know of の語法」『英語青年』（研究社出版）7月号，p.8.
- (7) 『冠詞・形容詞・副詞』（講座『学校文法の基礎』第3巻）[監修：荒木一雄；編集委員：大江三郎，斎藤武生，成田義光，村田勇三郎]（研究社出版：1984.7）pp.1-128.
- (8) 「空範疇に関する指定」（共著：斎藤武生・原口庄輔）『統率・束縛理論の輪郭』（昭和59年度科学研究費補助金総合研究（A）「電算機処理による現代英語の記述的・理論的研究」＜研究代表者：筑波大学教授 安井稔＞）（1984.11）



言語科学研究第14号（2008年）

- pp.78-89.
- 1985 (1) 『ロングマン英英大辞典：使用の手引』（桐原書店：1985.3）14pp.
- (2) 「Possibly, it may survive.」『月刊言語』（大修館書店）3月号, pp.98-99.
- (3) 「諺的な直喩表現について」『筑波英学展望』（筑波大学現代語・現代文化学系英語学・英文学グループ）4号（1985.3）, pp.33-40.
- (4) 「know of についての覚え書き」『英語の文法と理論』（昭和59年度文部省科学研究費補助金総合研究（A）「電算機処理による現代英語の記述的・理論的研究」＜研究代表者：筑波大学教授 安井稔＞）（1985.3）pp.17-27.
- (5) Nicholas J. Teele 著, 斎藤武生注釈 *Rediscovery: Essays in Contemporary American Life*（開拓社；1985.4）
- (6) 書評：藤田実・平田達治編『ことばの世界』（大修館書店）.『現代英語教育』（研究社出版）5月号, pp.60-61.
- (7) 「すぐに役立つ言語学6：広告言語の分析」『月刊言語』（大修館書店）6月号, pp.ii-iii.
- (8) 「新言語学と学校文法：生成文法の位置づけ」『現代英語教育』（研究社出版）9月号, pp.13-15.
- 1986 (1) 書評：高橋作太郎著『文法（英語の演習2）』（大修館書店）.『現代英語教育』（研究社出版）2月号, p.60.
- (2) 「英語教師の整理学：英語学一般」『現代英語教育』（研究社出版）3月号, p.14.
- (3) 「諺研究の状況」『筑波英学展望』（筑波大学現代語・現代文化学系英語学・英文学グループ）5号（1986.3）pp.33-40.
- (4) 書評：荒木一雄編『英語正誤辞典』（研究社出版）.『週刊読書人』（1986.9.22）p.4.
- (5) 校閲：ノーム・チョムスキー著, 安井稔・原口庄輔訳『統率・束縛理論』（研究社出版：1986.11）第4章4.1-4.4.
- (6) 書評：今井邦彦編『チョムスキー小辞典』（大修館書店）.『英語教育』（大修館書店）11月号, pp.94-95.
- 1987 (1) 『[例解] 現代英文法事典』（編者：安井稔）（編集委員・項目執筆：斎藤武生, 鈴木英一, 中右実, 中村捷、原口庄輔、安井泉）（大修館書店：1987.5）812pp.

- 1988 (1) 斎藤武生監修，小菅和也著『アプローチ高校英語』（桐原書店：1988.1）  
354pp.
- (2) 「ビアスの語法辞典 — 形容詞・副詞の場合」『筑波英学展望』（筑波大学現代語・  
現代文化学系英語学・英文学グループ）7号（1988.3），pp.35-41.
- (3) 書評：伊藤健三・島岡丘・村田勇三郎著『（英語学大系第12巻）英語学と英  
語教育』（大修館書店）。『英語教育』（大修館書店）9月号，p.92.
- 1989 (1) 「“False Passive” について — Bierce（1909）が提起する問題」『受動構文の研  
究』（昭和62/63年度文部省科学研究費補助金一般研究（B）「現代英語を中  
心とした受動構文および関連構文の理論言語学的研究（課題番号  
62450058）」＜研究代表者：筑波大学教授 斎藤武生 [63年度]，獨協大学  
教授 神尾昭雄 [62年度] >）（1989.3）pp.71-89.
- (2) 「英語教育を考える — チョムスキーの主張をめぐって」『筑波英語教育』（筑  
波英語教育学会）10号（1989.3），pp.175-180.
- 1990 (1) 高等学校用英語教科書 *GATEWAYS to Reading IIB* 207pp.（著者：斎藤武生，  
塩沢利雄ほか5名）（開拓社：1990.2）
- (2) 「言語学と言語文化学 — チョムスキーの言語観とそれが示唆するもの」『言  
語文化の理論的・実践的研究』（昭和63年度・平成元年度文部省特定研究経  
費研究成果報告書＜研究代表者：筑波大学教授 島利雄＞）（1990.3）  
pp.1-16.
- (3) 「文科系組織の改編にむけて — 過去の経緯と当面の課題」『筑波フォーラム』  
第28号（筑波大学：1990.3），pp.24-29.
- (4) 高等学校用教科書 *GATEWAYS to Reading IIB — Teacher's Manual* 418pp.  
（斎藤武生、塩沢利雄ほか5名）（開拓社：1990.4）
- (5) 「わが学問ことはじめ」『つくばスチューデント』（筑波大学学生部：1990.5）  
p.2.
- (6) 「人文学類で学ぶ」『人文学類案内』（筑波大学第一学群人文学類：1990.7）
- 1991 (1) 「クリーシェイの言語文化論」『現代英語学の歩み』（編集委員：郡司利男，  
神尾昭雄，桑原輝男，斎藤武生，鈴木英一，中右実，中村捷，原口庄輔）（開  
拓社：1991.11）pp.441-450.
- 1992 (1) 「談話研究へのアプローチ」『談話研究の諸相』（平成2/3年度文部省特定研

言語科学研究第14号（2008年）

- 究経費「談話構造の理論的・記述的研究」＜研究代表者：筑波大学教授 斎藤武生＞）（1992.3）pp.1-6.
- (2) 項目分担執筆：荒木一雄・安井稔編『現代英文法辞典』（三省堂：1992.6）
- 1993 (1) 高等学校用英語教科書 *NEW HARMONY English Course I* 143pp.（著者：斎藤武生ほか7名）（開拓社：1993.3）
- 1994 (1) 高等学校用英語教科書 *NEW HARMONY English Course II* 139pp.（著者：斎藤武生ほか7名）（開拓社：1994.2）
- (2) 「諺研究のその後の状況」『言語文化論集』（筑波大学現代語・現代文化学系紀要）38号（1994.3），pp.303-314.
- (3) 高等学校用英語教科書 *NEW HARMONY English Course I — Teacher's Manual* 268pp.（著者：斎藤武生ほか7名）（開拓社：1994.4）
- 1995 (1) 高等学校用英語教科書 *NEW HARMONY Reading* 186pp.（著者：斎藤武生ほか7名）（開拓社：1995.3）
- (2) 高等学校用英語教科書 *NEW HARMONY English Course II — Teacher's Manual* 271pp.（著者：斎藤武生ほか7名）（開拓社：1995.3）
- (3) 『英語なんでも情報事典』（編者：伊村元道，斎藤武生，速川和男）（研究社出版；1995.7）427pp. [第2部「ことばの周辺」（pp.97-200）の編集・項目執筆]
- (4) 『英文法への誘い』（編集者：斎藤武生，原口庄輔，鈴木英一）（開拓社：1995.10）337pp. [斎藤武生還暦記念論文集]
- 1996 (1) 高等学校用英語教科書 *NEW HARMONY Reading — Teacher's Manual* 329pp.（著者：斎藤武生ほか7名）（開拓社：1996.3）
- (2) 「カヌーは自分で漕ぐもの」『フレッシュマン・セミナー1996』（筑波大学：1996.4）pp.20-21.
- (3) 「英文に学んだころ」『つくばスチューデント』（筑波大学学生部：1996.6）p.2.
- (4) 項目分担執筆：安井稔編『コンサイス英文法辞典』（三省堂；1996.11）
- 1997 (1) 「山形和美先生と「筑波英学展望」のこと」『筑波英学展望の会』16号（1997.2），pp.1-2.
- (2) 「図書館長就任にあたって」『つくばね』（筑波大学附属図書館報）第23巻1号（1997.7.31）pp.1-2.

- (3) 「カヌーは自分で漕ぐもの」(再録)『フレッシュマン・セミナー1997』(筑波大学：1997.4.1) pp.18-19.
- 1998 (1) 高等学校英語教科書 *OAK English I* 176pp. (著者：斎藤武生ほか6名) (開拓社：1998.2)
- (2) 高等学校英語教科書 *OAK English I — Teacher's Manual* 309pp. (著者：斎藤武生ほか6名) (開拓社：1998.3)
- (3) 「電子図書館サービスの開始にあたって」『つくばね』(筑波大学附属図書館報) 第23巻4号 (1998.3) p.1.
- (4) 「研究大学における教育の問題」『ファカルティ・ディベロップメントの実施に向けて』(筑波大学教育計画室：1998.3) pp.59-68.
- (5) 「カルチュラル・リタラシイと英語教育」『筑波英語教育』(筑波英語教育学会) 19号 (1998.3) pp.1-2.
- (6) 「本との出会いの場」『フレッシュマン・セミナー1998 — 新しい学生生活を創るために』(筑波大学：1998.4) pp.72-73.
- (7) 「英文学的野球戦のこと」『英文学的野球戦・60年を振り返って』(横山幸三編：1998.12) p.31.
- 1999 (1) 「言語文化学について考える」(筑波大学退官記念講演 [最終講義]：1999.2.10)
- (2) 高等学校英語教科書 *OAK English II* 167pp. (著者：斎藤武生ほか6名) (開拓社：1999.3)
- (3) 「英語教育における言語文化の重要性」『筑波英語教育』(筑波英語教育学会) 20号 (1999.3) pp.i-ii.
- (4) 高等学校英語教科書 *OAK English II — Teacher's Manual* 335pp. (著者：斎藤武生ほか6名) (開拓社：1999.4)
- 2000 (1) 『日・中・英 言語文化事典』(編集委員・項目執筆：赤祖父哲二，川合康三，金文京，斎藤武生，ジョン・ボチャラリ，林史典，半沢幹一) (マクミランランゲージハウス：2000.5) 1713pp.
- 2001 (1) 「筑波英語教育の20年」『筑波英語教育』(筑波英語教育学会) 第22号 (2001.3), pp.iii-vii.
- (2) 「井上和子先生のご退任にあたり」『言語科学研究』(神田外語大学大学院紀

言語科学研究第14号（2008年）

- 要) 第7号(2001.3), pp.1-3.
- (3) 「郡司先生と言語文化」『侘助 — 郡司利男先生を偲ぶ』(郡司利男先生追憶集刊行会編:2001.9.4) pp.33-37.
- 2002 (1) ビデオ講座「ことばと文化 I」(小学校英語講師養成プログラム講座6:5時限)(通信教育センター・ヒューマン・アカデミー:2002.1)
- (2) 「言語文化研究の方法と課題(1)」*Scientific Approaches to Language* No.1 (2002.3), pp.173-183.
- (3) 「ことばの文化遺産と辞書」BHセミナー(2002.6.2)
- (4) 「言語教育研究の新しい動き」大学院説明会:公開講義(2002.7.13[土])
- (5) 「言語文化研究がめざすもの(1)」神田外語大学留学生別科研修会講演(2002.10.30)
- 2003 (1) 「言語文化研究がめざすもの(2)」神田外語大学留学生別科研修会講演(2003.1.15)
- (2) 「カルチュラル・リタラシーとしての諺について」BHセミナー(2003.6.4)
- (3) 「玉井東助先生のこと」『めろう』(玉井東助先生喜寿祝賀文集:代表 江藤秀一)(2003.6.9), pp.46-48.
- 2004 (1) 「言語文化研究の方法と課題(2)」*Scientific Approaches to Language* No.3 (2004.3), pp.187-204.
- (2) 「引用句辞典の中のチョムスキー」BHセミナー(2004.6.3)
- 2007 (1) 「言語文化研究ノート — 「引用」をめぐる問題」*Scientific Approaches to Language* No.6 (2007.3), pp.163-183.